

→社会学者が小説『リリアン』を書いた  
2022.5.8 (日) カルチャーウォーキング  
関西文学散歩 第 569 回 参加報告

物語のベースに音楽が流れている。「D  
♭の下にずっとベースがA♭」。私はクラ  
シック畑。ジャズは全く知らない。でも、  
「そうや、かえっていくねん。ただいま、  
おかえり、B♭にトニックにかえっていく  
ねん」わかる。たしかにかえって行く。そ  
ういえば昔、正門横のブルーノートとかいう店に入りびたってた同級生がいたっけ。こ  
の作者は絶対ジャズやってる人と思って読んでいたが、そうであったらうという話を横  
井先生から聴く。

「音楽は十二音の並び方でできていて、人間が生まれるずっと前から順番決まっています。  
そういう順番聴くとそう感じるようになっていて、それってこわい。たくさんの言葉で  
はなく十二音の配列」。わかる。個人的に妙に心にのこっている。主人公がベーシスト  
だから余計にかもしれない。キーボードやトランペットだったらまたちがったのかもし  
れない。

さて、駅前の大きなファミマはどこだろう。大和川はどこを流れてるんだろうと想像  
していた街をたどる。ここが作品中、中学生がたむろしているマクドナルドです。ここ  
が、二人が生活していた一階がペットショップのマンションです。と先生。何かわくわ  
くする。小説なのに。主人公と美沙さんがそこから出てきそうな気配さえする。

二人の日常を大阪弁で綴った物語『リリアン』。そう、リリアンって、子供のころ編  
んだなあ。夢中になって編んだ。きれいなひもが出来てくる楽しさ。でも、ひもしかで  
きななかった。何もおこらなかつた物語。

リリアンに出てくる大阪の街。海みたいに大きい淀川。北新地の店。西九条のお客さ  
ん。阪急の山田駅から行く万博公園とモノレールで入  
る万博公園。すごく納得する。そしてこちよい大阪  
弁。東京の人達はどんな風に読むのかなあと思った。

そのあびこの街を歩いて、今日の解散は長居公園。  
5月のさわやかな休日の公園の家族づれ。公園の奥に  
は大阪市立長居植物園。最近人気の薄紫の可憐な花、  
ネモフィラが満開だそうである。その傍で咲き競うバ  
ラ園のカップルを見て、ベーシストの主人公と美沙さ  
ん、何か不思議な気がした。



大依羅神社の楠木



大依羅(おおよさみ)神社

<報告/松浦裕子>